

世界遺産 熊野古道

伊勢路随一の美しい石畳道(馬越峠)

目次・主な内容

■ 2005年9月15日(木)理事・役員会 理事・役員会、特別講演会……………	2	2. インターンシップ受入企業開拓事業……………	9
■ トップインタビュー……………	4	3. 経協活性化プロジェクト活動……………	10
■ 経協新副会長……………	6	4. 三重県地域労使就職支援機構……………	10
■ 第107回日本経団連人事・労務管理者大会……………	7	5. 高齢者雇用安定法が改正……………	11
■ 第34回三重労使会議……………	7	(厚生労働省職業安定局から)	
■ 協会創立60周年記念事業……………	8	石綿(アスベスト)について……………	11
■ 協会事業活動……………		6. 最近の労働判例・三重県最低賃金・ 労災保険に未加入の事業所について……………	12
1. 労務管理改善協力委員会活動……………	8	7. 公益通報者保護法……………	13
		■ Window事務局……………	14
		■ 主要労働経済指数……………	15
		■ 行事予定・業務日誌……………	16

理事・役員会開催される

去る9月15日(木)、プラザ洞津2階『高砂』にて理事・役員会を開催



1. 理事・役員会 (出席者：24名)

開会に続き、藤井会長から、総選挙並びに結果からの経済動向について、2002年1月を谷とした景気拡大も「岩戸景気」の42ヶ月を抜き、戦後3位タイに並ぶ拡大基調となっていますが、成長の中心は財からサービスへと移っており、かつてのような「豊かさ」の象徴が見つけにくいこともあり、回復の実感が持ちづらくなっていることも認識をすべきと話があり、続いて事務局より労働経済情勢報告が行なわれ、協議事項に移りました。

(1)協議事項

- ①平成17年度前期事業活動 (4月～9月)
- ②平成17年度前期予算執行状況 (単位：千円)
(17年度予算額・57,950、収入額・32,728、
達成率・56.5%、支出額・20,965、達成率・36.2%)
- ③協会創立60周年記念行事(案)

開催は18年6月中旬、13時30分からとし、一部で定時会員総会を行い、引き続き二部は記念行事として感謝状・表彰状の贈呈、来賓祝辞、祝電披露の後、記念講演会を開催。その他、記念事業として記念品と記念冊子の作成(年表を中心とした経協の動き、労働経済等)を行う。

以上、いずれも満場一致で承認されました。

(2)経協活動報告

活動報告につきましては各担当者から報告がされました。(活動報告の内容につきましては経協事業報告に記載)



特別記念講演

政治評論家
長野 祐也氏



理事・役員会の後、特別講演会として「選挙後の政局を読む」と題しまして、政治評論家、長野祐也(ながのすけなり)氏よりお話を伺いました。

■講師紹介

長野先生の人となり要約しますと三つの顔を持っておられ第一の顔は政治評論家、第二は大学客員教授、第三はラジオコメンテーターとして、それぞれの分野でご活躍をされ、更には3期10年、国政の現場にみえられた体験、人脈を活かした政局分析とその政策提言には説得力のある論陣により全国レベルにおいて好評を得られています。

■講演要旨 (※要旨につきましては、聞き取りに多少の差があるかと思いますが、ご了承をお願いします。)

私は梅雨時生まれです。当県では川崎さんと同期、今回の選挙で一番驚いたのは小泉さんです。

1. 何故自民党が勝ったのですか

第1は小泉劇場(一人三役、シナリオ・演出・プロデュース)、第2はメッセージが明確、第3は小選挙区の特徴がハッキリ出たことです。

投票率の7.65%アップは約800万人が新たに投票所に出かけたことです。

一議席たりとも減ればやめる。造反した人は公認



しない。全選挙区に候補者をたてる。この意味は大きく、小泉さんの真剣さ、本気が有権者に感動を与えたことです。

2. 脇役、刺客騒動は

小選挙区の始まりである英国では当たり前のこと、また採決に反対したら除名は当然のこととなっている。(小選挙区制度をつくる時、原案は小沢さんがつくった。この制度に反対したのは小泉さんである)

3. 改革推進政党(自民党は新しく生まれかわる)

派閥が機能しなくなった。これは英国のブレア首相のポリシーと同様、組合の利益より国民の利益を優先したことと同じことを実行。

4. 任期について

私は任期いっぱいでもやめると思う。族議員は早くやめて欲しいと思っていることも事実である。

5. 日米関係について

日本の国益で考える時、一番大切なのは米国であり、日米安保条約のおかげである。(ブッシュにモノが言えるのは、小泉とブレアです)

6. 岡田さんの負けっぴりは立派である

人のおだてにのらない。挫折、失敗は人を伸ばす。
※講演中、今、民主党は議員総会を開催中との話がありました。

7. 公明党はガリバーになった自民党にどう存在感を示すかである。

8. 2つの新党(新党日本、国民新党)は国民に共感を呼ばなかった。

33選挙区で13名生き残ったが出番はない。たぶん戻りたいのではと思う。

9. 造反組の亀井さんは小泉さんは解散しないとミスリードをした。

■総選挙をふり返って

自公の融合は新たな段階に入った(一体化)。公の票が入らなければ100人は落選している。ともかく、投票に行ってください、幅広い国民を守るのは自民党と訴えたことです。

■緊急の課題として

今回の選挙で約800億円の税金が使われたことであり、これからが大変である。

(1)三位一体 (2)外交・6ヶ国協議(アメリカは妥協しない。西側の常識では北朝鮮に期待をするのはムリである。) (3)医療保険 (4)憲法改正 (5)アスベスト等あり、どの国も政権がおかしくなるのは経済状況からである。

■小泉首相に望みたいこと

だれも、ブレーキをかける人がいなくなったので



冷静に律すること。

■ポスト小泉は

4人に絞られてきた。福田、安倍、麻生、谷垣である。麻生、谷垣は同期、安倍は岸信介の秘書をやっていた。父は安倍晋三。麻生は吉田茂の孫で英語はペラペラである。ポスト小泉がないとなると小泉が指名の形になる。

7月5日、衆議院本会議で郵政民営化関連法案が5票差で可決し、8月8日の参院本会議では否決(賛成108・反対125)を観るや、小泉首相は信念に基づいた決断により衆議院解散を実行し、国民にその是非を問うと打ち出し選挙の結果、「与党3分の2超」(自民296・公明31で327議席)という想像もしなかった圧勝で終わり、近く特別国会が開かれるが首相指名に加え再び郵政民営化法案が審議され、この法案成立が山積みしている諸改革の大きな原動力となっていくことは明らかです。

小泉首相は40年前、大学3年の時、横須賀慶応学生会の文集に「人生五十年、どうせ一度は死ぬのだ。乾坤一擲(けんこんいってき)、思い切ってやろうという凄絶(せいぜつ)な雄々しい感情を秘めて打ち向かっていった信長の気迫は男らしくて爽快である。相手を倒さなければ自分が殺される。戦いに明け暮れ、死などを考える暇がなく、しかも死が眼前にある苛烈な時代の人々の生き方に大いに教えられる」と書かれており、自らを戦国の武将に重ね合わせている姿は鬼気迫るものを感じますが、信長の生き方こそ、首相の理想なのだと思います。又、総選挙を避けるため森前首相が参議院での継続審議を進言したが首相は「殺されてもかまわない」と言い放った言動は多くの国民にその共鳴と感動を呼び起こしたことを観ますと首相の一貫した信念が良く理解できることです。

(文責 事務局)





会員企業各社、社長の素顔に迫る「トップインタビュー」、
第1回目は経協会長会社であります三重交通(株)奥田社長さんに
登場していただきました

「個」を活かし「全体」の活性化へ ～衣冠束帯を離れ、熱い議論を通じて～

三重交通(株)取締役社長 奥田 卓廣さん

～今日は、お忙しい所、時間を割いて頂きありがとうございます。早速ではございますが、三重県とのご縁、
また印象についてお聞かせください。～

大学を出て昭和40年、近畿日本鉄道(株)に入社、名張の宅地開発がご縁で桔梗ヶ丘に住居を構えたのが43年、
それ以降は名張で生活していますが、途中約17年間はアメリカ勤務がありました。勤務は大阪本社でしたの
で、津市の方面にはパスポート、免許証の更新時に出向くぐらいの印象です。正直言って大阪郊外の住宅地に
住んでいるという感じでした。

～会社の経営理念あるいは方針についてお聞かせください。～

多くの私鉄・バス会社とも大同小異ですが高度成長・バブル期には本業の交通事業のほかに宅地開発や流通・
宿泊事業など多角化を進めました。振り返れば「素人の商売」的なことがあったのではと思われることがあり
ます。当社も60年の歴史を持ち、バスを中核事業として沿線の住民サービスを通じて地域への貢献と信頼を培っ
て参りました。グループ会社も衣・食・住・遊、そして移動という日常生活に密着した事業を展開し30社余り
となり、時代の流れに合わせ膨らんできていることも事実です。連結経営が重視される今では各事業分野別に
事業戦略を明確にし、個々の事業ではなくグループ全体として最も効率的な経営を行っていくことであり、各
社の取り組みにつきましても、そのベクトルをひとつの方向性にまとめる必要があります。目下はそうした計
画の策定に向けて努力しています。

～会社の従業員教育についてもお聞かせ下さい。～

グループ会社毎にそれぞれの事業推進に即した社員教育を行っていますが、グループ各社からすれば中心で
ある当社に大きなイメージと期待もあり、グループ全体としての指針も大事にしたいと思っています。

特に公共交通機関、ライフサイクルに直結する私達には「安全に対する信頼」「環境・福祉への積極的な取
り組み」は企業基盤の根底にかかわることでもありますので、より一層、徹底を図り社会の手本になれるよう努力を
していきたいと気持ちを引き締めております。

～「愛・地球博」はご覧になりましたか。その感想をお聞
かせください。～

会場へのアクセスは随分勉強しましたが博覧会の内容その
ものは見学する時間が充分ありませんでした。中部国際
空港、愛・地球博の2大プロジェクトでは特需として多く
の方々にバスをご利用頂きました。県内でも北勢地域、ま
た、2月17日「空港アクセス港、津なぎさまち」開港によ
り中勢地域での波及効果は出ておりますが、伊勢、志
摩方面への反動が出ていることも実情です。



～ご趣味は、休日の過ごし方もお聞かせ下さい。～

結構、観劇・音楽・美術館には足を運びます。土・日は朝5時過ぎには起床し、FMでバロック音楽を聴きながらパソコンを立ち上げ、世界の経済情勢を見ることにしていますし、同時に「パソコン将棋」もします。趣味といえば拙いですがピアノの練習もします。週末の午後は妻とゴルフ（ハーフ）かプールに出かけます。若い時にはスキー、テニスもやりました。飲む（アルコール）方は毎日2合位ですが、自分ではいける方では…とのことでした。



～経営者協会にご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。～

三重県は各種の統計資料、データを観ましても全国47都道府県でいずれも中位にあるような印象です。是非、独自のもので、日本をリードするような県になって頂きたい、私も本年6月に赴任したばかりで経協の事業につきましても、まだ十分把握をしていませんので、これからは注視していくことと致します。

～最後に一言、いつか社長になったらやりたかったこと、また、考えていたことがありましたらお聞かせ下さい。～

日本でもアメリカでも多くの経験をさせて頂きましたが、形だけ先走りしているような印象の現実を観ますと、目標（ビジョン）がなくなったのではと痛感しています。社内の風通しをよくし、衣冠束帯を離れた議論を通して活力ある企業集団へと変革させ、お客様の満足に繋げるサービスを提供し続けることが私達の永遠の目標でありますので、自己革新をより推進し、叡智を結集させ、豊かな地域社会の実現に貢献していくことが会社の社会的使命だと思っています。

大変貴重なお話をありがとうございました。



◆インタビューを終えて◆

第1回目ということで、私達事務局3名（平松、横田、大田）が担当しました。部屋に入られた時、「やあ～どうも」の一言で緊張がほぐされ、60分と頂いた時間も和気藹々の中でキャッチボールをすることが出来ました。今回のインタビューで、「明るく楽しく」がモットーですと話された背景（後ろ楯）が良く理解できました。限られた時間でしたのでお聞き出来ませんでしたでしたが、是非、アメリカの17年間に付きましても場所を変えて時間をかけてでもお聞かせ頂ける事と願っております。

◆奥田社長経歴

昭和17年10月生 三重県名張市在住

学歴

●昭和40年3月 慶応義塾大学経済学部卒業

職歴

●昭和40年4月 近畿日本鉄道株式会社入社
●平成2年4月 アメリカ近畿興業株式会社社長

●平成11年6月 近畿日本鉄道株式会社 取締役 企画室長
●平成13年6月 同社常務取締役
●平成15年6月 同社専務取締役
●平成17年6月 三重交通株式会社取締役社長

経協新副会長

去る6月17日(金)、経協17年度会員総会におきまして2名の副会長が満場一致で承認されましたので、ご紹介をさせていただきます。



戸澤 周純氏
(とざわのりよし)

(株)東芝 セミコンダクター社
四日市工場長

このたび、副会長に選任され就任しました、(株)東芝セミコンダクター社四日市工場の戸澤でございます。

三重県経営者協会は、地域における総合経済団体として県下においてその重要な役割を果たしており、今回、協会の副会長を拝命致しまして身が引き締まりますとともに、これから果たすべき役割を強く感じている次第でございます。

さて、東海地区の経済環境は、中部国際空港開港、「愛・地球博」開催の経済効果に恵まれ、比較的恵まれた環境にあります。今後永続的なものとなるかはまだ予断を許さない状況にあると考えられます。また、グローバル競争の激化など企業をとりまく経営環境も大きく変化しており、各企業は目先の好況不況に拘らず絶えず企業体質の強化を迫られる等、変わらず厳しい経営を余儀なくされております。こうした時代環境の中で、企業と地域社会が発展していくためには、従来以上に、企業間のネットワークを強力なものとし、かつ上部団体である日本経団連と連携して、各種政策に企業の意見を反映させていくことが益々重要であろうと考えておりますし、経営環境の変化に対応できる次代の人材育成やタイムリーな情報提供など協会の使命は高まっていくものと考えております。

藤井会長の下、県内産業と地域社会の発展に向けて、皆様とともに大変微力ではございますが、重責を果たしてまいり所存でございます。どうかご指導、ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

●プロフィール

- 生年月日/ 昭和26年4月3日
- 最終学歴/ 昭和52年3月 横浜国立大学大学院工学研究科 金属工学専攻修士課程修了
- 経歴/ 昭和52年4月 株式会社東芝 入社
平成10年7月 四日市工場製品技術部長
平成13年4月 メモリ事業部経営変革上席エキスパート
平成14年7月 四日市工場メモリ後工程統括部長
平成16年4月 マイクロエレクトロニクスセンター所長
平成17年4月 四日市工場長(現在に至る)



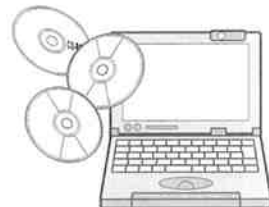
小林 長久氏
(こばやしながひさ)

日本トランスシティ(株)
代表取締役社長

このたび、三重県経営者協会副会長に選任され、就任致しました日本トランスシティ株式会社の小林でございます。

三重県経営者協会には、弊社の鍋田も前副会長を務めさせていただいており、又、私自身人事部に所属しておりました時、労務管理改善協力委員会で、平松専務理事より色々ご指導を受け、勉強させていただいた時代が7年間ございました。そしてこのたびこの大役を仰せつかりまして、このご縁とその責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

さて、現在、三重県の経済は、自動車関連、情報通信機械産業等の復活や好調さが言われるものの、まだまだ景気が回復したとの実感は薄いように思われます。政府の発表でも“穏やかな回復をしている”とされていますが、安心できる経済環境とは考えられません。この中で魅力ある三重県の地域経済社会の発展のためと、人事、労務の様々な問題提起やその解決のため、少しでも会員の皆様のお役に立てるよう、甚だ微力ではございますが藤井会長のご指導のもとに、協力してまいり所存でございます。皆様にもご支援ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



●プロフィール

- 生年月日/ 昭和18年11月8日
- 本籍地/ 三重県四日市市
- 最終学歴/ 昭和41年3月 早稲田大学教育学部 卒業
- 経歴/ 昭和41年3月 四日市倉庫株式会社 入社
昭和57年3月 人事部人事課長
平成3年6月 東京支店長
(平成4年4月1日 日本トランスシティ株式会社に社名変更)
平成7年6月 取締役就任
平成11年6月 常務取締役 就任
平成13年6月 代表取締役専務取締役 就任
平成15年6月 代表取締役社長 就任(現在に至る)
- 団体歴/ 四日市港運協会 会長、東海倉庫協会三重部会 会長

第107回 日本経団連人事・労務管理者大会愛知大会

去る7月7日(木)8日(金)、名古屋観光ホテルにて「組織活力を生む、企業変革へのシナリオ」～「攻めのリストラ」へ向けて人事が果たす役割～をテーマに開催。



◆第1日目(7月7日)

開会にあたり、愛知経協会長、岡部 弘(株)デンソー会長)より『企業変革を成功させ、更なる企業成長を実現させるには、自社の「人材力」を最大限に発揮し活力あふれる組織づくりを実現させることであり、そのための人事戦略がますます重要である』と挨拶があり、引き続き、基調講演として「志を持って新たな未来を拓く」について、張 富士夫(日本経団連副会長、トヨタ自動車(株)副会長)より話がありました。

1. 基調講演の概要

◆「志について」

故豊田喜一郎氏の呼びかけに答えて「高い志を抱いた多くの仲間が集まり1937年にトヨタ自動車創業」当時に諸先輩は「日本の産業の発展」という明確な目的をもち情熱を込めて車作りに邁進、その志と情熱が今日も引継がれている。「ただ儲けること」でなく、より良い自動車を安く作ることが「豊かでより便利な生活の実現」と日本のみならず「世界の国々の発展」につながるものです。さらに企業の使命として、真面目にビジネスを行い利益を上げること。次に環境、安全問題、地域社会の発展などに対して社会的責任を果たし、その上で世界各国の文化、教育、医療等にも国際的貢献をしていくことが重要であるとのことでした。

◆「新たな未来を切り拓く」ことは世界の自動車普及率を観れば自動車産業は成長産業であり、今までとは異なる視点をもって課題を克服し、自動車の楽しさ、快適さを最大化していくことであります。人材育成についてはまず、教育〔(知らないこと、教える)と訓練し知っていることを繰り返し実行し体にしみ込ませること〕を行い次の仕事に活かしていく姿勢を身につけることが大切。また、若手の育成にはチャンスを与えることを忘れないで下さいとのことでした。

2. 次に講演として「組織の強さと人材マネジメント」について、守島基博氏(一橋大学大学院、商学研究科教授)がありました。

3. 続いて、パネル討論「企業変革のために人事が果たす役割」が行われました。

◆第2日目(7月8日)は次の内容です。

1. 講演 「企業内プロフェッショナルの時代」 西山昭彦氏(東京ガス(株)西山経営研究所)

2. 特別講演 「部下のやる気を2倍にする方法」

和田秀樹氏(精神科医、ヒデキ・ワダ・インスティテュート代表)

以上、盛会裡に終わりました。

第34回 三重労使会議

去る9月14日(水)、三重県勤労者福祉会館、地下特別会議室で開催。(経協11名、会長、副会長、事務局、連合三重9名、会長、副会長、事務局が出席。)



■開催内容

両会長より挨拶のあと、「今後の三重県政について」三重県知事、野呂昭彦氏より話を伺いました。

■「今後の三重県政について」の概要

総選挙の総括から、小泉首相はあれだけ勝ったのだから相当大きな責任があるので果たして頂きたい。

さて、三重県政は特に時代の変革期でもあり思い切って変えなくてはならないことはかえることが基本である。改革を進めるについて過去の借金も巨大なものとしてのしかかっていることも事実です。今までの改革は①ほめられること。②何でこんなこと



を、何のためにやったのかがある。ギリギリの投資をし未来にふくらませることは大事である。

三重の観光については昨年11月「三重県観光振興プラン」～観光構造の变革、そして観光文化の創造を目指して～を策定し取り組んでいます。

新しい取り組みとしてNPM (New Public Management) 生活者視点 (前知事) からNPG (New Public Governance) 文化的視点でとらえ、文化力に注目し、狭い意味の文化でなく人生を舞台としたものとして、人々の生活の質を高めるためのさまざまな活動を行っていかうとするものです。いずれにしても地方分権の流れはとどまることはないので自分達でできることは自分達で、個人でできないことは家族→地域→市町村→県へと、いろんな主体がパートナーとして一緒になって「公」を支え合って行こうとの話を聞かせて頂きました。

(尚、参考資料として①県民しあわせプラン (概要版) ②新しい時代の公、③新しい時代の公における県の取り組み資料 (資料1-6) を頂きました。

協会創立60周年記念事業

去る9月15日(木)、理事役員会において協議の結果、承認されましたので、概要 (予定) について報告します。

▼開催時期 平成18年6月 日

▼開催場所 津市内

▼開催内容

第Ⅰ部 平成18年度、定時会員総会
(13:30～15:00)

第Ⅱ部 記念行事
会長挨拶、感謝状・表彰状贈呈、来賓祝辞、祝電披露、閉会
記念講演

その他 (1)記念品 (例えば扇子)
(2)記念冊子

協会事業活動

労務管理改善協力委員会活動

■定例会議・労管実務セミナー

去る7月14日(木)、プラザ洞津にて定例会議(30名)、実務セミナー(66名)を開催。

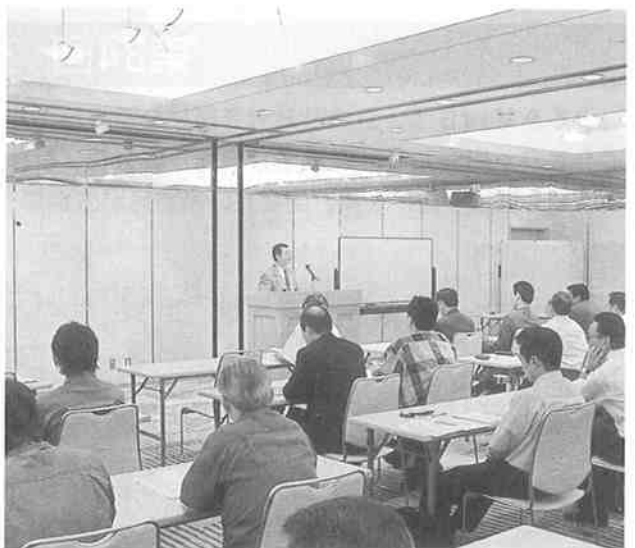
1. 定例会議

会長挨拶、各部会報告(3部会)、事務局からの連絡

2. 労管実務セミナー

「職場の防災セミナー」、講師・防災対策コンサルタント 山根信義氏

主な内容 ①自然災害の恐怖 ②職場防災対策マニュアル ③災害別防災対策マニュアル ④防災対策訓練マニュアル ⑤社内防災対策規定の作り方 ⑥取引先の管理 ⑦被災後のトラブル対策 ⑧自社のマニュアル作成等について、実務的で、すぐにでも活用できる話があり大変参考になりました。特に「社内防災対策規定」例は解りやすく活用できるものでした。



■部会活動

1. 7月20日(水) HRD部会 (13名)
(Human Resource Development)



近畿日本鉄道(株)白塚教習所にて教習所の概要説明および見学と事例発表①「専門教育の概要」②「CS活動について」を開催、中でも教習所に設置してあります、電車の走行運転の実技については運転席でスタートの走行、停止について実路線がスクリーンに出て、実際の運行が研修出来ることになっており、運行の厳しさがひしひしと伝わりました。

2. 7月27日(休)

「活力ある職場風土をめざす部会」



プラザ洞津にて13名参加、内容は次の通りです。

事例発表 ①「新卒採用について」、(株)赤福人事室教育、採用スタッフ、不破重良氏 ②「雇用管理について」(株)ぎゅーとら人事課長、北村克司氏、ビデオ上映(雇用能力開発機構)より「社員のやる気を引き出すには」～効果的コーチング活用法～が行われました。

3. 7月29日(金) 「職場に活力を生む人事管理を目指す部会」、横浜ゴム(株)三重工場にて18名参加。

横浜ゴム(株)三重工場概要説明および工場見学の後、事例発表として①「わが社の人事管理について」、(株)赤福、労務担当スタッフ鈴木 宏氏と「わが社の労務管理について」三菱化学(株)四日市事業所人事Grマネージャー山本雄史氏より発表を頂きました。

インターンシップ受入開拓事業

三重県経営者協会・三重労働局、並びに三重県では、職業・就業意識を高める人材を育てるインターンシップの普及・拡大に向けてより多くの企業や大学の参加を促し、次世代を担う人づくりを目的で平成14年度よりインターンシップ推進支援センター(東京経営者協会に設置)とともに取り組みを進めています。今年度の活動状況を報告します。



しおはま在宅介護サービスセンターにて

▼17年度(9月8日現在)

受入登録事業所 517事業所

マッチング学生数 442名

学 校 20校

全国でも当県はトップクラスの実績をあげています。
インターンシップの推移(受入事業所・マッチング学生数)

年度	受入事業所	マッチング学生数
H14	57	47名
H15	334	248名
H16	463	271名
H17	517	442名



後藤・今村会計事務所にて



松下電工(株)津工場にて